

ハワイ留学記

—母への便りから—



久保貞子

はや十三年も前のことになってしまいました。私は一九五一年、アメリカ大学婦人協会ホノルル支部からの Pacific Fellowship という奨学金を受ける幸運にめぐまれました。これは毎年東洋諸国から一名づつ女子の留学生を招聘して、ハワイ大学で学ばせるというものです。九カ月の留学期間のあと、また運よく、同志社にハワイ寮を寄付されたり、戦前、ハワイから二世の留学生や交換教授を同志社に送ることに尽力なされた Theodore Richards 御夫妻御寄付の奨学金で半カ年間留学を延長することができました。そのためにはハワイ大学社会学科の酒巻教授や当時ホノルルのヌアヌ教会の後藤牧師がいろいろ御骨折り下さいました。

一年半の留学を許して下さいました同志社はもちろん、その他内外の多くの方々の暖い理解と援助に支えられて、無事、留学生生活を過すことができましたことは、私にとって貴重な体験の一つであります。私が書き送った手紙を母が丹念に保存しておりましたのを見つけて、そのなかからいくつかをえらんで留学記としてみました。

第一信

九月十二日夜七時すぎホノルル港に着きました。大学婦人協会の奨学金委員長の方が船の中まで迎えに来て下さいました。留学生だからでしょう税関の調べも簡単に済み、港の外に出ると新聞社の人たちが幾人も来て面談され、写真をパチパチ撮られたのには面喰ってしまいました。日本からの留学生は今のところ、まだ少なくて珍しいらしく、毎日あちこちから食事やお茶の招待があったり、ひとが訪ねてこられたりして日をすごしてをります。学校はあと十日余りで始まりますので、追々落着いた生活にしてゆきたいと思っております。今日は大学の社会学科の主任教授に面会してきました。言葉の不自由から気をつかうことが多く大変つかれました。でも次第になれてゆくことでしょうし、自然も人々も明るくあたたかいところですから、何とかやってみようです。

住いは大学婦人協会のクラブハウスで、私のほかにアメリカの婦人が二人住んでいます。山手に近い住宅街ですが、私の部屋の前をひっきりなしに自動車が行来します。その

音が耳ざわりでねむれなくて閉口です。これもその内なれるでしょう。ではいづれまた。

一カ月余りたって

前便での御注意もあり、片桐先生宛、到着以来の様子御しらせしました。一週間位前からやや涼しくなりましたが、まだけっこう夏服で過せます。きくところによると、これから雨季に入るのだそうです。一月余りたちました。もつと英語の勉強を準備すべきであったとつくづく思いますが、もう来てしまった以上何とか切りぬけてゆくよりほかありません。でも教授方、学生たち、婦人協会の方々が助けて下さいますので本当に心強いです。先日も湯浅八郎先生御渡米の途中、当地御立寄の際、御目にかかり、弱音をほきましたら「あせらずに、ゆつくりやりなさい。」とはげまして下さいました。かねて、きいていて覚悟はしてきましたが、実にきびしい勉強をさせるところです。学生たちはよく勉強をしながらまた一方よく遊びます。勉強と遊びのなから世の中に出て役に立つことを身につけるようになっていようです。語学の力のことは別としても、体力の点でも日本人はと

てもついてゆけないと思います。

住いの方、自動車の音にも次第になれてきました。食物は日本食を食べようと思えばほとんど何でもあります。学校の食堂にさえないりずしがありますし、下町へゆけば、おなすや、かぼちゃの煮付まで売っていますが、そう特に日本食を食べたいとも思いません。

今週はハワイのお祭の期間で、町では色々おどりや行列などがあって賑っている様子です。学校でも普段より先生方も学生もはな服装でまことにはなやかなことです。ではお元気で。

クリスマス休暇前

しばらく便りが絶えて心配されたかもしれませんが中間試験があつて、お風呂へ入る間もないほど忙しい目をしていました。先週、めずらしくひどい雨風の日が三、四日つづいたとき風邪をひきましたが、大したことはありません。二十一日から一月四日までクリスマスMASの休暇に入ります。その間に他の島に旅行をしたいと考えていましたが、費用のことに適当な連れもないので、断念してホノルルで過すことにしました。勉強はいつまでたつ

てもなかなか大変です。それでも働しながら留学している人たちに比べれば私などまだ時間があるだけいい方です。先日、クラップ先生とメリットさんから紹介されたミス・カックという方を訪問しましたら、偶然、一緒に住んでおられる西田夫人は山科で兄さんとよくゴルフをなさったということでした。住いが大学のすぐそばで、気さくな方々なので、時々、あきの時間にはお訪ねしようと思えます。ミス・カックは戦前、京都に滞在しておられたこともあり、日本の庭園に関する本を書かれた面白い方です。中国にも行かれたとか、今は庭も室内も中国風にしてありますが、そのうち日本風に改造されるということです。

前期を終って

この二十七日に第一学期の定期試験が終り、来月十三日まで中間休暇でホットひといきついているところですが、この四カ月からい月日のはやく立ったのを感じたことはありません。試験のすんだ晩は東京から留学している友だちの下宿にいき、朝の四時まで語りあかしました。日本からの留学生は今のとこ

ろ、私たち二人だけなのと、たまたま私の女
専時代の同級生と友人関係があったりして親
しくなりました。お父様が元外交官で、小さ
い時から主としてヨーロッパですが外国生活
をされたとのこと。なかなかの勉強家で
しかも気のやさしい親切な人です。

中間休暇中は、社会事業科の方で社会施設
見学の計画があります。よい機会ですので特
にたのんでそれに参加させてもらうことにし
ました。予定は刑務所・精神病院・少年院・
乳児院・養護施設・老人ホームなどです。引
卒の教授のお話も予めきいてゆくことで
すし、えがたい経験になると大いに期待して
います。

後期が始って

新学期が始って二週間たちました。今学期
は朝十時からの授業をとる組合せになり、そ
の点少々らくになりました。写真二枚同封
します。色の方はお正月にうつしてもらった
ものです。白黒のは秋に友人たちとハイキン
グに出かけた時のものです。一緒にいる人た
ち日本、中国、フィリピン、朝鮮など東洋か
ら来た人々の二世、それに当地で言うハオリ

(白人)たちです。ここではこのように色々の
人種が、もちろん多少の差別はあるにして
も、仲好くくらししています。

三月十六日に大学人協会で奨学金を集める
ためのバザーがあり、その当日、日本の紹介
の話をするようにたのまれ、頭痛のたねで
す。日本語でも大勢の前で話すことは、にが
手ですのに、まして英語となると、今からど
うなることかとゆううつです。学校に話し方
という科目があるので、その先生に相談に乗
っていたら、やってみようと思っていま
す。

めずらしく四、五日雨が降りつづきまし
た。そちらにペイガン・ラヴ・ソングにとい
う映画がゆきましたら、ぜひごらん下さい。
内容はともかくとして、当地で撮影されたも
ので、このの風物がよく分りましょう。

学年の終り近い頃

こちらははや夏が近づき、段々あつくなっ
てきました。先日、片桐先生からお手紙をい
ただき、目のさめるような新緑の候とあり、
京都の五月を思い出すと同時に、大変な時候
のずれを感じました。六月二日に学年最終の

試験が終了します。最後の試験勉強で、当分、
便りはしませんが、御心配なく。来学年一学
期延ばすための奨学金、申込中でまだ何とも
分りませんが、許可になれば帰国は来年の二月
になります。そのため帰国は来年度の二月
せ八日十五日ホノルル発の船で帰る予定に
しています。

追々、日本からの留學生がふえ、京都から
本願寺の若いお坊さんが一人、神戸からはや
はり若いお医者さんが五人病院の実習生とし
て来ました。みな新しい生活になれるのに苦
勞していられますので、自分の自分の経験も
あり、この間、日本からの留學生ばかり、日
本語で思う存分話してたのしみました。せつ
かく外国にきて、日本人ばかり集っているの
は気をつけなければならぬことですが、た
まには気分転換も必要ですし、新しくきた人
たちはたいそううれしかった様子でした。

夏期大学では学生たちばかりでなく、すで
に社会で働いている人々も多く勉強に来ます
し、教授方も本土の大学から優れた方々が見
えることになっていたので、大いに期待して
います。せっかく留学できたのですから、最
後までできるだけの勉強をして、帰ってから

学校のお役に立ちたいと思っております。

帰りの船中より

二週間の本土の旅を終り、二月二十四日、サンフランシスコ発の船で帰国の途についています。本土ではサンフランシスコを根拠に、あちこち大学を見てまわりました。ロスアンゼルスでは船が一泊しますので、その間にポモナ大学に滝山季乃先生をお訪ねしました。そしても同志社で教えておいでになったカープ先生のお宅につれて行っていただきました。奥様には姉さんも私も女専で習ったのですが、御主人はお父さんをよく知っておられたらしく、御夫婦とも大層よろこんで下さいました。ロスアンゼルスを滝山先生、志田御夫妻の三人に見送っていただいて出帆、今ホノルルに向っているとところです。今日はよほど海が静かになりましたが、昨日はひどい荒れで、食堂には四、五人しか出て来ませんでした。私は全く平気で三度三度食事に出るので、「女の人は少しくらいよう方がしおらしくていい」など、冷かされているくらいです。ホノルルには三月二日の朝つく予定です。十時間ほど碇泊する予定ですが、丁

度日曜なので、学校に教授方をお訪ねできないのが残念です。方々お別れの御挨拶は前にすませていきますので、御申出に応じて志田さん方に一応落ちついて、できれば最後の思いに出に学友たちとワイキキの浜で泳いで帰りたいと思っています。船は予定より二日遅れていますので横濱着は三月十一日になります。

あとがき

三十も半ばになって年がいもなく終戦後の海外渡航熱にかかされて、準備不十分のままとび出した留学で、このために私を心的に物的に援助して下さった多くの方々への期待に、どれだけ応えることができたかを考えると、本当に恥しい気がします。けれどもこの経験は至って臆病な私がやった数少ない冒険の一つであり、それで十数年近くたつても忘れられない思い出でもあるのです。

便りのなかにありましたように、渡米して半年ほどたって奨学金を支給されている協会からスピーチを依頼され、困ってしまいました。大学の先生や友人に助けってもらって必死で準備し、当日にはたしか主に同志社について話したと記憶しております。夢中で四十分

ばかりの話しをすませたあと、多くの婦人たちから、私が同志社から来ていることを知られたからでしょう、大層親しみをもって話しかけられました。海外に同志社がそんなに知られていることをうかつにも知らなかった自分にあきれると同時に、同志社で育てられ同志社で働けることを心から誇りに思いました。

帰国後、今日まであちらで知り合った方たちが幾人も見物に視察にあるいは研究に京都に来られました。私は都合のつくかぎり同志社を案内することにしております。少しは話せた英語も使われないのと不勉強から、月日と共に次第に話せなくなってきましたけれども、これからも私のお役目の一つと思って下手な言葉でできるだけ多くの人々に同志社を紹介するつもりでおります。

(女子大学助教授・社会学)

×

×